Joyful Communication !

ドン・ボスコの風

SALESIAN BULLETIN JAPAN
January 2015
No. 14

ドン・ボスコ生誕200周年 BICENTENARY OF BIRTH

DB 200 特集

夢は続く

～未来に伝えたい思い～

ドン・ボスコ生誕200周年記念
巡礼の旅フォトダイアリー
ドン・ボスコゆかりの地を訪ねてきました!

サレジアン小伝
ありがとう!河合神父 教育に傾けた情熱

ドン・ボスコ 生誕200周年ニュース ダイジェスト版
全国の200周年関連イベント報告

Ciao! サレジオ家族探訪
目黒星美学園中学高等学校

サレジアン小伝追悼特別編
「ありがとう! アルド・チプリアニ神父 勤労の宣教師」

もっとキミに伝え隊!!
今回の応援隊員 川下和子 シスター

Message
サレジオ家族の皆様へ

「出向いて行きましょう」
～ドン・ボスコ生誕200周年の今、教会と共に歩む～

サレジオ会日本管区 新管区長
マリオ 山野内 倫昭神父

2014年に開催された第27回サレジオ会総会で訪れたバチカン・サン・ピエトロ大聖堂にて。フェルナンデス総長と

教皇フランシスコは 2013 年 11 月 24 日、信仰年の閉幕にあたり、現代社会にキリストを伝える新しい宣教についての使徒的勧告『福音の喜び』を私たちに贈られました。その中で教皇は、私たちがすべての人、特に貧困の中にある人のうちにイエスと出会い、福音を伝えるために情熱をもって出向いて行くことを求めています。「すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いて行きましょう。……わたしは、出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会の方が好きです。閉じこもり、自分の安全地帯にしがみつく気楽さゆえに病んだ教会よりも好きです。中心であろうと心配ばかりしている教会、強迫観念や手順に縛られ、閉じたまま死んでしまう教会は望みません。……外には大勢の餓えた人がいます。……『あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい』（マルコ 6・37）。」（『福音の喜び』49）

そして、サレジオ会アンヘル・フェルナンデス総長は 2014 年 8 月 16 日、ドン・ボスコ生誕 200 周年開幕にあたり、次のメッセージを強調しています。「この 200 周年が、私たちの家族と多くの人たちにおける真の司牧的、霊的刷新の機会、カリスマを生きたものとし、ドン・ボスコが若者にとっていつもそうであったように、ドン・ボスコを意味深い存在とする機会になると、私たちは信じています。世界中の子ども、十代の若者、青年たち、特に最も助けを必要とし、最も貧しく、最も弱い子ども・若者たちのために、新たにされた活力と確信をもって、私たちにゆだねられた使命を生きる機会になると、私たちは信じています。」

「出向いて行きなさい」と教皇フランシスコは何度も、特に若者たちに向かって呼びかけます。私たちサレジオ家族は、ドン・ボスコ生誕 200 周年の優先課題としてこの呼びかけに具体的に応え、日本の教会と共に心を合わせて歩んでいきましょう。

2015 年 1 月 1 日　神の母聖マリアの祭日に

～新管区長プロフィール～
マリオ 山野内 倫昭　やまのうち・みちあき
1955 年大分県佐伯市生まれ、59 歳。8 歳の時、家族とアルゼンチンへ移住。29 歳で司祭叙階。アルゼンチンの哲学院で哲学、社会学などを教え、司牧担当・院長・アルゼンチンとパラグアイ 6 管区の修練長を経て、1997 年（41 歳）帰国、日本のサレジオ会員として働く決意をする。育英高専・杉並支部院長、調布サレジオ神学院院長、副管区長・サレジオ家族担当・養成担当を務め、2014 年 12 月 4 日より日本管区長。趣味はギター演奏。

Contents もくじ

3 Message ● 「出向いて行きましょう」～ドン・ボスコ生誕200周年の今、教会と共に歩む～
4 Essay ● 「夢見る人 ドン・ボスコ」
6 DB200 特集 ● 夢は続く ～未来に伝えたい思い～
溝部脩さん サレジオ会・カトリック司教 from 日向学院高等学校
辻村直さん from 育英工業高等専門学校（現サレジオ工業高等専門学校）
12 ドン・ボスコゆかりの地を巡る ● ローマ サクロクオーレ大聖堂
14 Ciao! サレジオ家族探訪 ● 目黒星美学園中学高等学校
16 世界のサレジオ家族ニュース
18 ドン・ボスコ生誕200周年記念 巡礼の旅フォトダイアリー ●
ドン・ボスコゆかりの地を訪ねてきました!
サレジオ会日本管区、サレジアニ・コオペラトーリ、サレジオ工業高等専門学校
20 ドン・ボスコ生誕200周年ニュース ダイジェスト版
全国の200周年関連イベント報告
25 Book Review ● 本のひととき
26 サレジアンが心を込めて贈るあなたへ応援メッセージ ● もっとキミに伝え隊(タイ)!!
27 サレジアン小伝 ● ありがとう! 河合神父 教育へ傾けた情熱
28 サレジアン小伝 追悼特別編 ●
「ありがとう! アルド・チプリアニ神父 勤労の宣教師」
30 Info ● お知らせ　生誕200周年 青年イベント（日本国内・イタリア）のお知らせ 他
31 読者プレゼント

「ドン・ボスコの風」について —— 「ドン・ボスコの風」は、喜びを共にし、サレジオ家族の原点を見つめ、絆を深め、社会・世界に羽ばたいて、その実りを分かち合うためのコミュニケーション誌を目指しています。ドン・ボスコの精神を多くの方々と共有し、新しいつながりに広げていくきっかけとしてご活用いただければ幸いです。皆様からの情報提供とご支援をよろしくお願いいたします。

Joyful Communication !
ドン・ボスコの風
SALESIAN BULLETIN JAPAN No. 14
January 2015

表紙の写真
トリノ・ヴァルサリチェの聖堂のドン・ボスコの肖像画。ここは多くのサレジオ会宣教師を養成した場所で、チマッティ神父も院長を務めた。ドン・ボスコは最初にここに葬られ、現在はフランシスコ・サレジオにささげられた聖堂の後ろの祭壇にドン・ボスコの骨が納められている。

ドン・ボスコとは?
「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯を献げた神父。1815 年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味）。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888 年帰天。

サレジオ家族とは?
ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界 130 以上の国で、30 団体、40 万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。

Essay

「夢見る人 ドン・ボスコ」

文●浦田慎二郎

9歳の時に見た夢

ドン・ボスコが自分の見た夢を物語っていたことはよく知られています。将来の夢、という意味の夢ではなく、文字どおり寝ている間に見た夢です。夜見た夢をよく覚えている人も覚えていない人もいますが、ドン・ボスコはよく覚えていました。ドン・ボスコが子どもたちやサレジオ会員に語ったり書き残した夢は少なくとも108あります。それらの夢を夢の〝対象〟で分類してみると、大きく次の3つに分けられます。↖（次ページ参照）

はじめはドン・ボスコも半信半疑

これらの夢をドン・ボスコは本当に語ったとおりに見ていたのでしょうか。それは第三者には決してわからないことです。しかし現実的な可能性の話で言うと、たとえば子どもたちやサレジオ会員たちに現在の状態についての警告的な意味で夢が物語られる時、もしかしたら伝えたいメッセージをわかりやすい形で、しかも「夢」という、ある意味、聞き手に超自然的なイメージを持たせる形で物語ることで、よりインパクトを与えたいという意向があってドン・ボスコが作った物語である可能性は否定できません（もちろん、すべてそのまま見た夢であるという可能性も否定できません）。

ドン・ボスコの見た夢　3つの対象

1.
ドン・ボスコ自身、彼の生涯や使命に関する夢

扶助者聖マリア大聖堂建設の夢

2.
オラトリオの若者やサレジオ会に関する夢

南米パタゴニアに宣教師を派遣する夢

3.
教会、政治の世界に関する夢

教皇ピオ９世が乗った船（教会）が嵐にさらされていると、聖マリアと聖体の柱の間に錨を下ろす夢

こういう話をすると、ドン・ボスコの夢から神秘性を奪ってしまう感じがしますが、ドン・ボスコ自身も、見た夢について最初から信じ込んでいたわけではないのです。彼は現実的な人でもあったからです。ドン・ボスコは9歳の時の夢について、祖母が発した言葉、「夢など信用しないことだよ」に対して「わたしも祖母の意見に賛成でした」と言っています（『ドン・ボスコ自叙伝』より）。そして、19歳の時、進路に迷いながら9歳の夢を思い出す時も、「でも夢は信じたくなかった」と繰り返すことになります。

神の力で実現する夢

しかし、9歳の夢について話すなら、最初は信じたくはなかったけれど、「それにしてもこの夢を忘れ去ることはどうしてもできなかった」夢であり、大きくなるにしたがっても「モリアルドで見た夢は常に念頭にあり、同じ夢はより明白な形でその後も何回か繰り返され」ていたのです。結局ドン・ボスコは1858年（43歳の時）になって初めて教皇ピオ9世にこの夢について話し、書き記すことになります。おそらくその頃になるとドン・ボスコの中でも9歳の時の夢が自分自身の生涯、ひいてはサレジオ家族全体を大きく導く柱のようになっていると確信していたのでしょう。つまり、「寝ている間に見た夢」が「未来への夢」に変わっていったのです。自分の生涯が見えない大きな力、神の力によって導かれていることがはっきりしてきたということでもあります。ただの「憧れの夢」ではなく、「現実的ではないかもしれないが、神の力によって必ず実現される夢」になったのです。

そのような意味での夢をドン・ボスコは他にも多く見ています。9歳の夢の続きと思われる夢（ドン・ボスコが育てた子どもたちの中から、彼の協働者、後継者が出てくるという夢）、パタゴニアの大平原にサレジオ会員たちが宣教に行くという夢、日本も含めた世界中にサレジオ会員たちが行くという夢……。周りの人々はドン・ボスコがこれらの夢を物語り、それが驚くべきことに実現していくのを見ます。そこには、夢を通して神のみ旨を探し求めるドン・ボスコ、そして彼の父なる神への無限の信頼を見ることができたのです。

浦田慎二郎 うらた しんじろう

サレジオ会司祭。サレジオ学院卒。教皇庁立サレジオ大学大学院霊性神学博士課程修了、神学博士号取得。ドン・ボスコの研究家。現在サイテック館長。

夢は続く

～未来に伝えたい思い～

未来を夢見ることは誰でもできる。しかし、その実現の困難さは計り知れない。あきらめてしまいそうな〝夢〟を若者や遠い異国の人びとと共に実現しているバイタリティあふれる2人から、未来に伝えたい思いを聞いた。

取材・文・写真●編集部

京都・カトリック西陣教会前にて。中学生たちと一緒に

溝部 修（みぞべ おさむ）さん

サレジオ会・カトリック司教・望洋庵主宰

サレジオ歴

日向学院高等学校　サレジオ会員60年

カトリック仙台司教、高松司教を務め、2011年に引退されて今年80歳になる今も京都で小さな庵を編んで、若者の指導にあたる溝部脩司教。ドン・ボスコ生誕200周年にあたり、サレジオ会員としてのこれまでの歩み、そして今を語っていただいた。

プロフィール

1935年朝鮮民主主義人民共和国、新義州に生まれる。1955年サレジオ会入会。1964年司祭叙階。1990～1996サレジオ会日本管区長。2000年仙台教区長として司教叙階。2004年より高松教区司教。2011年引退。現在、京都市上京区のカトリック西陣教会内の「望洋庵」にて若者の指導にあたる。

日向学院中学校・高等学校
宮崎県宮崎市大和町 110
www.hyugagakuin.ac.jp

サレジオ会との出会い

1935年3月に北朝鮮の新義州で生まれました。鴨緑江のすぐそばの町で、すぐ隣が満州でした。戦後、小学校6年生で日本に引き揚げてきました。父親が抑留されていたので母親の故郷、大分県に行きました。国東半島の大田村（現杵築市）というところです。でも満州や朝鮮半島からの引き揚げ者で実家は人で溢れ、食糧不足で家庭の状況も悪くなりました。母は決意して実家を離れ、別府市に行くことにしました。兄と姉がそのまますぐ奉公に出て家を離れました。母は病気がちの弟につきっきりで夜病院に泊まることが多く、私はいつも一人で家に残っていました。しかも、住む家は転々と変わり、ほとんど学校に行けず、中学校も転々としました。戦後の別府市はかなり猥雑な町。進駐軍のアメリカ兵がいて、たくさんの売春婦がいました。そういう中で私は思春期を迎え、当然のように勉強もせずたむろするグループに入っていきました。

中学3年生の5月のある日、遊び仲間と原始的な当時のパチンコ屋に入っているところを見つかって、警察署に補導されてしまいました。中学校の担任から母親と一緒に呼び出され、懇々と説教されました。母親は私を一人でいさせている呵責もあったのか、問題を感じたんでしょうね。その頃、子どもたちでいっぱいだった別府カトリック教会の存在を知っていて、そこに私を行かせることにしました。もともと私の家はカトリックではありませんでしたけれど。数日後、母が頼んだ信者の男性と母とに挟まれて、半ば強制的に私は教会に連れて行かれました。そこで出会ったのがレオーネ・リヴィアベッラ神父でした。あの頃彼は50代だったでしょうか。彼は何も難しいことは言いませんでした。「溝部君、ピンポンはできるかね?」と。そして2人で卓球をしました。ああ、教会って卓球するところなんだなあと思いました。それが初めてのサレジオ会員との出会いです。

左からレオーネ・リヴィアベッラ神父、アントニオ・カヴォリ神父、ヴィンチェンゾォ・チマッティ神父。1961年頃

戦後の混乱の時代ですから、学校は暴力が多かったです。暴力教師がいましたし、クラス同士の、あるいは他校との喧嘩が絶えませんでした。卑猥な話も溢れていました。別府という町柄、男の子も女の子もませていました。そんな中で教会に行ったときに、なんて平和なんだろうと本能的に思いました。喧嘩がありませんし、みんな優しい。神父さんたちが卓球してくれたり、布のボールやミットを作ってくれて野球をしたりしました。いい思い出があります。しばらくして「洗礼を受けたい」と言うと、リヴィアベッラ神父は「毎日ミサに来なさい」と言いました。そこで毎朝ミサに通い始めました。

ミカン泥棒事件

実は洗礼を受ける前、こんなことがありました。11月2日の死者の日の前の土曜日に、リヴィアベッラ神父から「墓地の清掃に行ってくれ」と頼まれました。私が一番歳上で中学生会の会長でしたから、小学生も含めて15、6人の子どもたちを連れて山の上のカトリック墓地に行って掃除をしました。墓地の後ろが全部ミカン畑で、ちょうどたわわに実っていました。仕事してお腹が減ってのどが渇いたので、ミカンをとうとう食べてしまいました。食べるだけならまだしも、みんなで服のポケットに入れていたら、ミカン畑の主人が出てきて「おまえたち、教会で何を習っているんだ。盗むということを習っているのか?」と。それ逃げろということで、みんなで一斉に逃げ出しました。でも小学校の3年生くらいの子がもたもたして捕まってしまいました。遠くから見ていたら、ミカンの木に縛りつけられて泣いている。ますいなあと思って。みんなで主人のところに戻って「すいません。みんな返しますから」と謝りました。しかし「返さんでいい。買え」と言うんです。でもお金などありません。すると「神父を連れてこい。神父に買わせろ」と。そこで30分くらいかけてみんなで下りて行って、リヴィアベッラ神父に事情を話しました。すると「行こう」と言ってから、黙って一緒にミカン畑まで登っていきました。そして主人にお金を渡してから、「じゃあ帰ろうか」と私たちを促しました。彼を先頭にしてすごすごと教会まで帰ってきました。着くとリヴィアベッラ神父が「ミカンを出しなさい」と言う。怒られるだろうなと思ってみんなで出したら、彼はひとつミカンの皮を剥いて、ひと房ポンと投げ上げて口でうまくキャッチして食べました。そして私たちに「食べなさい」と言いました。感受性が強かったこの時期に、こういう司祭との出会いは大きかったですね。その姿にすごく感動しました。洗礼を受けたいと強く思いました。そして、その年のクリスマスに洗礼を受けました。

その後、家が貧しく高校には行けないので、中学校を卒業したら働こうかなと思っていました。すると、

“信じる心を通して事は成る”という信念こそ、まさに現代に必要なこと

リヴィアベッラ神父と
1956年哲学生の時。調布神学院にて

リヴィアベッラ神父が来て「見たところ、君は頭もいいみたいだし、勉強もできるのではないかと思う。宮崎にあるサレジオ会の日向学院に行きなさい。お金は心配しなくていいから」と。それは志願院（小神学校）に入ることも意味していたのですがよくわからず、ただ高校に行けるということはわかりました。

でも志願院の生活はとてもよかったです。これまでこんなに勉強したことはありませんでした。きちっとした時間割で、毎日机に向かいました。そして何よりも素晴らしいサレジオ会員たちに出会いました。いつも一緒にいてくれてやさしかったです。最初は何もわからないままこの世界に投げ込まれた感じでしたが、高校3年生のときは神父になろうという気持ちになりましたね。その後出会ったチマッティ神父を含め、何よりドン・ボスコの教えを生きている会員たちと出会ったことが私の人生を大きく変えました。教区司祭の存在を知らなかったので、神父というのは私たち少年たちといつも一緒にいる人たちだと思っていましたし、こうなりたいと思ってサレジオ会司祭となりました。

アシステンツァ（共にいる）の心

特定の宗教を信じているかどうかを別にして、現代社会において神さまにすがる、信じる心は大事だと思います。今は自分の力で自分だけでできるという思い込みが激しい時代です。素直に合掌する心が出てきたらいろんなものが変わると思います。鎌倉時代に法然や日蓮や親鸞（しんらん）たちは、合掌して念仏を唱え、弥陀（みだ）の情けにすがって当時の日本を改革していこうとしました。信じる心を通して事は成るという信念こそ、まさに現代に必要なことです。これはドン・ボスコのモットーである「Da mihi animas, caetela tolle」（私に魂を与えよ、他のものは取り去りたまえ）につながる心ですし、ドン・ボスコが強調したアシステンツァ（共にいること）と深い関係があるのです。

というのもアシステンツァの基本は、実は相手の中に神さまを見る、他者の中に神がいる、阿弥陀（あみだ）さまがいるという心なのです。寄り添いながら、その人の中に神さまを見つけていく心です。それは自らの謙虚さにつながっていきます。右の手が阿弥陀さまで、左の手が人間で、それが一つに合わさって合掌し、そして自分の目の前にいる人を拝んでいるこの心です。実は信仰なんですよ、アシステンツァは。この心がなくなって方法論だけでやっていくと、自分がしてあげているんだ、そばにいてやってるんだということになっていく。あるいは好きな人といるときだけがアシステンツァだという感じになってしまいます。

家庭的精神と同時に若者と共に一生を捧げる生き方こそサレジオ精神だと思います。ドン・ボスコ生誕200周年にあたるこの1年、私たち一人ひとりが何ができるか考え、行動し始めてみてはいかがでしょうか。

望洋庵について

2011年に高松司教を引退してからしばらく高知県にいて、これからの人生をどうしていくか考えました。桂浜で海を眺めながら、やはり自分はサレジオ会員で、生涯青年たちと一緒に生きてきたので、自分の最後は青年と一緒に生きてみようかなと思いました。

ただ、昔みたいに青年とバスケットボールをしたり、山に登ることはできません。できるのは何かと考えたときに、サレジオ会員として若者の霊的指導、霊的同伴なんだと思い至りました。これだけ司牧経験をしてきたし、今、私はそれができるのではないかと。小さな家に住んで、一人ひとりとゆっくり人生の生き方、福音の分かち合いを主体にした、庵（いおり）を作ってみたいなと思いました。これが発端で、たまたま京都のカトリック西陣教会にある築108年の家を大塚司教さまが提供してくださったのです。条件も整っていてここでやっていこうと思い「望洋庵（ぼうようあん）」と名付けて出発しました。

望洋庵で行われる黙想会の様子

望洋庵の食卓を大勢の若者と一緒に囲む

主な活動としては、キリスト教入門講座とシンポジウム、それから黙想指導です。最初の年に1870名の人が訪れました。2年目はまだ数えていませんがもっと多いと思います。泊まった人は200名以上。個人指導の黙想は30名ぐらい。リピーターも増えてきています。歳をとってもこれならできると自信を強めています。

ここでもやはりドン・ボスコのバランス感覚の大切さを感じています。ある司教から「私はあなたのようなことは絶対できない。この歳になってこれだけの若者を集めて何かをしているのは脅威だ」と言われました（笑）。私には音楽などの才能はありません。でも、方法論ではない何かが人を引き付けているとすれば、それは「Bonta」（イタリア語で善の意）であり、そっと寄り添っているアシステンツァだったのかなと思います。

若者が宗教的なことをこんなにも求めているのかということに今は驚いています。また彼らは一緒に集うことの喜びを求めています。本当に純粋な青年たちがたくさんいます。今は、あまり慌てないでゆっくりと必ず福音を一番に置いて分かち合いながら、若者と共に歩んでいるという感じです。その中で若者一人ひとりが自分の人生を決めていってくれたらいいなと思っています。★

望洋庵の3つの柱

- **どういう状況にあっても希望をもって生きたい若者のために開かれる**
- **太平洋のように広い世界へと歩み出したいと願っている若者のために開かれる**
- **自分の人生にいまひとつ賭けてみたいという若者のために開かれる**

2014年 東ティモール・ボランティア&スタディツアー

2014年8月23日～9月5日、溝部脩司教の呼びかけにより、関西と関東から5つの学校、関西学院大学、京都大学、サレジオ高専、大東文化大学、同志社大学の学生が合同チームを作りプログラムを実施した。

ボランティア活動として、ドン・ボスコ・ファトマカエ業学校のバレーボールコート整備を行った。学生たちは砂利やセメント運びなど、普段は慣れない肉体労働を現地の学生と共に行った。スタディツアーでは、日本大使館、国連開発計画でのワークショップ、フェアトレードを行っているNGOバルシックを訪れ、東ティモールで活躍する日本人に触れる機会を得た。また、ティモール島の最高峰である霊峰ラメラウ山（標高2963m）への登山を行い、360度を見渡しながら御来光を仰ぎ、神秘的な体験を共有することができた。

望洋庵
京都市上京区新町通り一条上る一条殿町
502-1　カトリック西陣教会内
Tel. 075-366-8337

望洋庵支援の会

望洋庵の運動を援助したいという人たちが集まって発足し次の2つのことを決めました。

1. 次の時代の教会、社会を考えている青年男女に声をかけ、望洋庵の理念や活動を紹介して参加を勧める。

2. この「望洋庵」の若者の召命促進運動に賛同してくださる方に応分の募金支援をお願いする。

望洋庵ご支援の方は下記の口座にお振り込みください。

支援募金振り込み口座
ゆうちょ銀行：「溝部司教と召命促進をともにする仲間」
普通預金口座　638（店名）1648376番

限界
“自分にリミットをもうけないで。”

辻村 直（つじむら なお）さん

（独）国際協力機構 JICA 専門家

人生を変える出会いがある。それは人との出会いだけではない。東ティモールという〝忘れ去られた国〟に出会い、そこに生きる人びとのために情熱を注ぐ女性がいる。JICA専門家の辻村直さん。今も東ティモールで活動し続ける彼女の波瀾万丈な経験談と若者へのメッセージを伺った。

サレジオ歴

育英工業高等専門学校（現サレジオ工業高等専門学校）

プロフィール

工業デザイン学科卒。在学中に学校主催の東ティモール海外ボランティアに参加。卒業後は洋蘭の培養専門職に従事。2004年よりサレジオ会系NGOの東ティモール駐在スタッフとして赴任。援助の届きにくい東部地域にて漁業普及プロジェクトを実施。ファイバー・グラスでのボート作り、船外機のメンテナンス、漁業組合の設立などに尽力。2010年より国際公務員として同国全土を対象とした漁業普及プロジェクトに従事。現在も同国にて国際協力専門家として様々なプロジェクトに従事している。

サレジオ工業高等専門学校
東京都町田市小山ヶ丘4-6-8
www.salesio-sp.ac.jp

今どんなお仕事を？

東ティモールで働いています。JICA（独立行政法人 国際協力機構／ODAの実施機関）で、ODA（政府開発援助＝外務省／発展途上国の経済発展や福祉向上のため、先進国が行う援助や出資）の橋を建設するプロジェクトの土地収用（建築計画内の土地の住民に別の場所へ移住してもらうこと）のために住民の情報収集を現地政府のティモール人と共に行っています。

この仕事についたきっかけは？

一番のきっかけは、育英高専時代にサレジオ会のスロイテル神父様が行っていたNGOのボランティアプログラム、育英海外ボランティア（現在は解散）に参加して、1994年の卒業間際の夏に初めて東ティモールに行き、1カ月半過ごしたことです。海外ボランティアも初めてでした。東部のバウカウで風車動力のポンプを設置する土木作業をしました。このとき、伝手（つて）で出会った胡蝶蘭（こちょうらん）のメディクローム培養※1の研究所に就職が決まっていて、半分は卒業旅行も兼ねていました。就職後は8年弱働き、充実した生活を送っていましたが、その間も夏か春に2～3週間休暇を使って育英海外ボランティアにOGとして参加して、東ティモールのことを少しずつ知りました。その頃東ティモールはインドネシアの一部で、とても治安の悪い国でした。1999年に独立した時はとても喜んだのを覚えています。

業界の不景気で勤務先の会社が倒産した同じ頃に、スロイテル神父様がJICA支援の漁業普及プロジェクトに長期で関わる人を探していたので、言葉も技術もないことに不安を感じつつも志願し、2003年1月、育英海外ボランティアの職員として念願の東ティモールでの仕事と生活を始めました。憧れの場所だったので、日本とは違って電気も水もない生活でしたが、充実した生活でした。テトゥン語も少ない教材で少しずつ現地で覚えました。わかってくると、とても嬉しかったです。それからずっと漁業普及に携わってきています。現地の漁師たちとファイバー・グラスでボートを作り、魚が捕れるようになると、グループを組織したりと少しずつ発展していきました。自足のために始めた漁業が、魚を販売するまでになりました。ボート作りを漁師たちに技術移転するため、ヤマハ※2とJICAから専門家を1カ月程派遣していただいたこともありました。漁師たちと一緒に学び、作ることで絆ができていると感じています。

その後、漁業プロジェクト修了後、現地の首都で開催された国際機関のワークショップに参加しました。その際、関わったプロジェクトについて発表する機会を得ました。それを聞きに来ていたFAO（国連食料農業機関）の方が漁業普及のための人材を欲していて、現地で漁業を学び、現地に精通した人材と認識してくれて、一緒に働きませんかとオファーをいただきましたが、始めは半信半疑でした。一度日本に帰って少し休もうと考えていたところ、FAOから「本当に来てください」とEメールが届いたのです。そこでお受けし、1カ月後に漁業プロジェクトで今度はFAO職員のコンサルタントとして2年半の契約で現地の農林水産省の役人と多国籍なスタッフと共に働きました。その後、JICAで橋の建設のプロジェクトで人材を探しており、FAO職員の時に全国の漁師を対象に経済家計調査をやっていた経歴が買われて現在に至ります。

東ティモールでの仕事には、やりがいを感じています。現地に飛び込んで、色々吸収して、地方漁師とその家族に関わった7年間。この人たちの思いや大変な生活を見て、彼らの言葉にならない思いをどうにか中央政府の政策に生かしたいという思いで橋渡しの役割を果たしました。漁業普及プロジェクトの際、造船はもちろん、トレーニングして船外機を修理する技術を覚えました。ヤマハに研修にも行きました。政府の役人と一緒にスペアパーツを持って、船外機を直して回るキャンペーンをやった時に、以前会ったことのある漁師との交流が生まれたりもしました。こうして現地政府の人に経験を伝え、共に漁師たちの所に行く。そこで私を突き動かしているのは社会貢献欲です。それは今でも最初のボランティアの時のままです。同国コモロにある職業訓練所で、船外機を修理していると、集まってくる学生たちに、「何でも聞いてください」と恥じらわずに言います。「ただでもらったので、ただで分けます」と。私は東ティモールでお返しできないほどのものを与えられました。それは今でも返し切れていないのです。

現在のサレジオ高専正門前にて。
真っ直ぐな眼差しと丁寧な話し方が意志の強さを感じさせる

漁師たちに船外機の修理をレクチャー中

NGO育英海外ボランティア現地スタッフと

なぜ育英高専に？

普通の子どもでしたが、絵を描くのが好きで、物を作る現場に入るにはどうしたらいいか漠然と考えていたら、通っていた清瀬教会に育英高専の電子科に通っている幼なじみがいたのです。それで、決めました。私は女子の4期生ですが、当時女子はとても少なくて、お手洗い、更衣室とか全部ピッカピカの状態でした。外国人の神父様が多かったのを覚えています。伏木神父様が教えてくださっていた人間論・倫理やデザイン論を論文に書くという授業が面白かったし、工房で溶接や木工、プラスチック成形、陶芸など何でも作るのが非常に楽しかったです。ヘンドリックス先生と深川先生からは、ただならぬオーラというか、偏屈なまでにこだわるデザイナー魂を感じました。それが専門性なのかなと思いますし、その後、社会人となって専門性の大切さを身をもって体験しました。思い出のハイライトはやっぱり東ティモールに行ったことかな。初めて清水の舞台から飛び降りるような気持ちでした。それがなかったら今頃何をやっていたのでしょうね。

若い人たちにメッセージを。

自分にリミットをもうけないで。こんな平々凡々とした私がチャンスを与えられたんです。優秀だから選ばれたわけではないのです。不安でも、ちょっとだけ好奇心がまさった。すぐに力になれないけど、何でも学びますという気持ちです。まず自分の事を好きになってほしい。自分が最初に自身の味方をしなかったら、だれも味方してくれないですよ。興味があることはあると言った方がいい。恥ずかしいとか、主張しない美しさとか日本人にはありますが、それは海外では通用しないですよ。言わなかったら、誰もわかってくれないのです。人から言われてではなく、自分がどうしたいか。思いがあり、それを発信できることは重要なことです。場違いとか思わないで。

最初のボランティアの時にお世話になったスペイン人のアンドレ・カジェハ神父様がフェアウェルパーティをしてくれたとき、「何もできないと落ち込まないでください。自分の足でここまで来たこと、東ティモールで見たことを持って日本に帰ってください。この忘れ去られた国に遠い日本から訪ねてきてくれたこと、知り合いになってくれたあなたたちの存在（プレゼンス）こそがプレゼントだよ」と言ってくださいました。東ティモールの地を踏んで、息をしていただけなんだけど、迎えられた。帰ったら何かしなきゃなと思いました。その夜のパーティの時のことは忘れられなかったですね。この言葉は皆さん一人ひとりに言えることだと思います。自分の存在を認めて、自分を好きになって、味方をして欲しいですね。★

※1. 細胞を培養してクローンの苗を作ること。　※2. ヤマハ発動機株式会社。バイクやモーターボートで有名な日本企業。

ローマ サクロクオーレ大聖堂

―教皇から託された晩年の大事業―

★イタリア中部ラーツィオ州　ローマ★

文・写真●編集部

正面ファサードはネオ・ルネッサンス様式。奥の屋根の上に見えるのは金色のイエスのご像。ローマ・テルミニ駅のすぐ脇、マルサーラ通りとヴィチェンツァ通りの交わる角にある。聖堂の右側に隣接するのは当時の寄宿舎（現在は宿泊施設およびドン・ボスコ博物館）

教皇ピオ9世による最初の計画

1860年までは現在のローマの終着駅であるテルミニ駅周辺はほとんど人が住んでいなかった。時の教皇ピオ9世がそこにテルミニという名の鉄道駅を建設すると決め、1870年からイタリア王国がローマを占領して近くの通りに省庁を建設し始めると、顕著な人口増加が始まる。それに伴って、周辺の教会だけでは信者を抱えきれなくなった。ピオ9世はその状況を見て、駅近くのマルサラ通りにイエスのみ心（伊：Sacro Cuore）にささげる教会を建てるため土地を購入した。だが、教会を建てる前にピオ9世は亡くなってしまった。

ドン・ボスコへの計画の委託

後を引き継いだ教皇レオ13世は、すぐにこの計画を再開し、1879年8月16日に定礎式が行われた。しかし、工事は資金の欠如のためすぐに中止された。

教皇はとても心を痛めた。というのは、その地域はもはや人口が密集しはじめ、またプロテスタント（カトリック教会から分離した教派）が大いに宣伝を始めていたからだった。数年後トリノに派遣されることになるアリモンダ枢機卿は教皇にこの計画をドン・ボスコにまかせるように進言する。1880年4月5日、教皇が自らドン・ボスコにこの問題を話すと、ドン・ボスコは答えた。「教皇様の願いは私にとって命令です。教皇様が私に委ねるご好意のある依頼ならば受けます」。「だが、資金を渡すことはできないのだ」と教皇は言った。それに対してドン・ボスコは、「教皇様、私はお金を求めません。ただこの仕事のために必要な教皇様の祝福と霊的恵みを願います」と答えた。大聖堂を建てることを受け入れる際、ドン・ボスコは一つの提案をする。それは教会だけではなく、若者の教育のための寄宿舎を一緒に建てることだった。

資金難に苦しむ

ドン・ボスコはボレッティーノ・サレジアーノ（サレジオ会会報誌）を通じて計画を紹介し、司教や有力者に多くの手紙を送り、サレジオ会の全支部の院長にこの教会建設を手伝ってくれるように願った。

寄付のために特に効果を上げたのが、2度のフランスと1度のスペインへの旅だった。この旅はドン・ボスコの健康に決定的なダメージを与えることになる。チェルッティ神父は語っている。「私はあの教会を建てる資金を集めるためドン・ボスコのイタリアやフランスへの旅に何度か同伴しましたが、教皇の願いを果たすためにドン・ボスコが果たしたひどい過労と恐ろしい精神的・肉体的苦しみを見ました。私はあの過労と苦しみが彼のいのちを縮めたことは間違いないと思っています」。

資金調達のため大掛かりな福引を企画するのも大変だった。何者かによる放火未遂事件もあった。多くの反対者がいたのだ。

〝夢〟の実現

ドン・ボスコは1887年4月半ばにローマに行き、5月14日に献堂式を行うと決めた。完成のめどが立っていないので、もう少し先に延ばすよう周りは忠告したが、自身の最期が近いとわかっていたので、出席するなら5月しかないと答えた。

1887年5月13日、ドン・ボスコは教皇に「私と、全サレジオ会員、サレジアン・シスターズ、コオペラトーリをペトロの座に結び付ける愛情と信心の永遠の記念碑」として聖堂をささげ、5月14日、ルチド・マリア・パロッキ枢機卿の司式で献堂式が行われた。

5月16日、ドン・ボスコは扶助者聖マリアの祭壇でここでの最初で最後のミサをささげた。15回以上涙し、ミサはなかなか終わらなかった。居合わせた人々もドン・ボスコの信心とその姿に感動し、近づいて手や祭服に接吻し、香部屋から出る彼に祝福を願った。その願いに「祝福します、祝福します」と震える声で応えたものの、泣き出してしまい、顔を両手で覆い、立ち去らざるをえなかった。人々は驚き、泣き出す人もいた。

ミサ中になぜ感動したのか聞かれ、こう答えた。「9歳から10歳にかけて修道会について見た夢の場面が私の目の前に非常にはっきりと現れ、母と兄が夢について質問をする場面がはっきりと見え、聞こえたので、ミサを続けることができなくなってしまったのだ」。

「その時が来れば、すべてわかるでしょう」。夢の中の女性が言った言葉の意味が62年後にわかったのだ。

献堂から122年。2015年のドン・ボスコ生誕200周年に向け、大規模修復がなされた。現在、ドン・ボスコが宿泊していた部屋も見学することができる。

聖堂内にある、教皇ピオ９世の像

ドン・ボスコがこの聖堂での最初で最後のミサを行った扶助者聖マリアの祭壇

聖堂内部の様子。天井から桟まで聖画と装飾で埋め尽くされ、中央祭壇奥にみ心のイエスの絵が見える

ドン・ボスコ博物館の入り口

ドン・ボスコ博物館の一角にあるドン・ボスコがローマで滞在する際使用した部屋

Ciao! チャオ!

サレジオ家族探訪
Salesian Family Visit
各地のドン・ボスコの仲間を紹介します

愛をもって自ら行動する女性に！

東京都世田谷区大蔵 目黒星美学園中学高等学校

元気のよさと思いやりが生徒たち、教員たちを笑顔にします

みなさん、こんにちは。東京都世田谷区にある目黒星美学園中学高等学校です。わたしたちの学校は、「相互の信頼を基盤に、生徒一人ひとりが備え持つている個性を活かし伸ばしていく、生徒主体の教育」を基本精神としています。

1960年に女子の一貫教育を目指し、目黒区碑文谷にある小学校の併設校として世田谷区大蔵の地に中学校を新設、1963年に高等学校を開校し、現在に至っています。ですから、世田谷にあるのに「目黒星美学園」なのです。ある生徒は「千葉県にあるのに、東京ディズニーランドと呼んでいるのと同じようなもの」と説明してくれました。

学校の周囲には砧公園や世田谷美術館、大蔵運動場などがあり、緑豊かで落ち着いた環境です。約530名の生徒が学んでいます。

生徒のいるところに教員あり

本校の創立者であるドン・ボスコの教え子（＝サレジアン）といえば、「アシステンツア（共にいる）」。本校も教育理念の一つに据え、教員たちも生徒の中にある可能性に気づきまた気づかせ、それを伸ばしていけるよう日々の小さな関わりを大切にしながら生徒と共に学び、考え、活動し、共に成長していけるよう励んでいます。

被災地ボランティア研修で毎回訪問交流している宮城県亘理町の荒浜中学校の生徒たちと。一緒に作ったうちわを持っての集合写真

亘理町の仮設住宅で行っている「せいびっこカフェ」

暖かい日の光がラウンジを居心地よくしてくれます

ラウンジで熱心に勉強

砧公園でのオリエンテーション

校内で好んで活用されているのが、各階の廊下、ラウンジと呼んでいるスペースでしょう。教室と同じ広さがあり、委員会やクラブのミーティングの場、行事前の作業場所、試験前には勉強会の場になっています。また季節を問わず、毎朝決まった場所で黙々と学習に取り組む生徒の姿も見られます。ラウンジは、教員や友人との語らいの場、交わりの場、学びの場といえます。

教員は学習面でも、いつでも生徒をサポートする態勢でいます。「行きたい大学へ行ける力を」をスローガンに、生徒のニーズに応えるべく、様々な学びの機会を提供し、とことん関わり、生徒自身の挑戦する力、夢を実現する力を養っています。

愛されている実感こそがその人の成長を促す

一人ひとりの中にある「意欲」が発揮されるのは、「愛されている実感」からです。最近は、うまく関わりを築けない青少年も増えていますが、中高一貫校、しかも少人数ですので、6年を通してよい関わりを築くことができます。中学時代にうまく築けなかった関係を高校時代に築き直すこともでき、クラスや学年の絆がより固くなります。お互いを理解しあっているからこそ本当の助言や励まし、分かち合いができるようになります。

Be Tough and Elegant！

目黒星美には、元気でやんちゃな生徒も多いですが、その心は優しく、他者への思いやりにあふれています。個々に与えられた力、能力を誰かのために役立てたいとの思いを抱いている生徒も多いです。各学期に行われる宗教行事や宗教の時間を通して学んだことが将来への歩みのきっかけになることもあるようです。実際、ボランティア活動に関心を寄せる生徒は多く、特に、東日本大震災後には、「私たちにできること」をスローガンに「被災地ボランティア研修」が、生徒たちによって立ちあげられました。春と夏の年2回被災地を訪問するほか、校内外での募金活動や、学園祭で被災地の商品の販売をしています。この夏で6回目となる訪問を終え、参加生徒数は、延べ100名を超えました。

そして参加した生徒たちの中から、これら体験したこと、知ったことを「発信したい」という声があがり、新たな活動として、「宮城から東京へ復興に協力しよう」ということで池袋駅前にある宮城ふるさとプラザというアンテナショップにて、商品の販売とイベントを行いました。

このような活動ができるのも多くの方々の協力や支えあってのことだということを心に留め、感謝の心、分かち合う喜び、そのために払う小さな犠牲や努力を通して、ドン・ボスコが望んだ「優しさと強さ」が少しずつ身に付き、社会に貢献できる女性へと成長していけるよう、これからも教員一同励んでいきたいと思います。

出張販売のコーナーで開店前のミーティング

池袋の宮城ふるさとプラザ

（文・写真／目黒星美学園中学高等学校提供）

目黒星美学園中学高等学校
東京都世田谷区大蔵 2-8-1
www.meguroseibi.ed.jp

世界のサレジオ家族ニュース

World Salesian Family NEWS

インド

ヤマハ発動機とサレジオ会 若者のために手を結ぶ

2014年7月17日、インド・コルカタ初のヤマハ訓練センターが、ドン・ボスコ技術訓練校内に開設された。これはヤマハ発動機インディアとサレジオ会が手を結び、実現したもの。それぞれの専門得意分野をもって協力し、恵まれない若者に技術訓練の機会を提供する。

センターの開所式は、サレジオ会コルカタ管区長ゴメス神父とヤマハ発動機インディアセールスの浅野正樹社長を迎え、サレジオ的な雰囲気の中で行われた。訓練が行われる教室でゴメス神父と浅野社長がリボンカットした後、教室が祝別され、参加者はプロジェクトへの神の助けを祈った。

コルカタのヤマハ訓練センター開所式（ドン・ボスコ技術訓練校にて）

浅野社長は、何の技術も身につけていない多くの若者が失業に追いやられ、国の発展をはばむ要因になっている現状への憂慮を示し、ヤマハがドン・ボスコと手を結んだのは「弱い立場にある失業した若者に機会を提供し、製品基準を満たす2輪車の修理やサービスの技術訓練を行うことで、これらの問題解決と就職支援に取り組むためです」と語った。

センターのコースを修了すると、生徒たちはヤマハ技術アカデミーから修了証書を受け、ドン・ボスコ技術訓練校が彼らの就職を支援することになる。

シリア

シリアの困難な状況について 中東管区長の手紙

サレジオ会中東管区のムニール・エル＝ライ管区長は2014年7月から8月にかけ、シリアのサレジオ会の3つの支部、カフルーン、アレッポ、ダマスコを訪問した。3年に及ぶ内戦による荒廃、宗教的原理主義の恐怖、日常生活の困難と共に、状況に適応して困難を乗り越えようとする人々の姿をエル＝ライ神父の手紙は伝えている。

「シリアでは、3年に及ぶ内戦の結果、人々、そして若者たちの間にあきらめが広がり、希望や信頼も萎えてしまっています。しかし、厳しい試練の中、信仰は失われていません。くじけずに生活を続けるのは大変困難です。なぜなら、戦争に終わりが見えず、戦争が終わった後どうなるのかがわからず、復興にどれほど時間がかかるかもわからないからです。その上、イスラム原理主義への恐怖が大きくのしかかっています。」

エル=ライ管区長とシリアの若者たち

「シリアに留まる人々が類まれな勇気を頼りに生きている、前向きなしるしも見られます。人々は人生を歩み、結婚したり、さまざまなお祝いもあります。子ども・若者たちは学校や大学に通い、仕事を見つけた人はどんな仕事でもします。置かれた状況に適応しようとするたくましさがあり、機会を見つけてはお祝いをします。留まった人々はリスクを恐れていません。しかし、このような勇気も、いつまで続くでしょうか。」

「主が、私たちの歴史のこの悲劇的な時に、私たちのキリスト者兄弟姉妹に、そして〝愛しいシリア〟のすべての人に、力、勇気、堅忍をお与えくださいますように。」

中東の不安定な情勢は、ガザに加え、シリアやイラクの内戦が激化、「第2次世界大戦後、最悪の人道危機」と言われるほど深刻な事態が続いている。教皇フランシスコも中東の平和を祈り求めるよう、全世界の教会に呼びかけている。

苦難にある中東の人々のため、〝イスラム国〟などの原理思想に心を奪われ身を投じてしまう若者たちを取り戻すため、今、祈りが必要とされている。

西アフリカ

エボラ危機の状況と 人びとに寄り添う取り組み

エボラ出血熱の猛威にさらされている西アフリカで、サレジオ会は人々に寄り添い、最も深刻な状況のリベリアとシエラレオネにも留まり、恐れと無知に対抗し、希望と前向きな姿勢を広めるために、教区、政府機関、WHO、NGOと連携し活動している。

西アフリカ英語圏管区のホルヘ・クリサフリ管区長は、世界各地からの支援に感謝し、エボラ出血熱へのサレジオ会の取り組みを報告している。（2014年9月時点の情報）

ガーナ　エボラは発生しておらず、予防に取り組んでいる。保健省と調整しながら、Don Bosco Youth Network（DBYN）が全国的な予防キャンペーンを展開。ビデオ、オーディオ教材、ステッカー、看板、文書などを活用し、予防知識を広めている。またリベリアの首都モンロヴィアに拠点を開き、リベリアのサレジオ会と共に救援を行う計画が進められている。

ナイジェリア　発生は少ない。ラゴスを拠点に、予防のための教育プログラムを行っている。

リベリア　深刻な事態。集会や移動が規制され、救援活動に支障が出ている。サレジオ会は、ユースセンターの養成されたスタッフと共に500以上の貧しい家庭に食料、衛生用品（塩素、消毒剤、防護服など）を支援するプログラムや、町中での啓発活動を行っている。ドン・ボスコ8番街とニューマタディの2つの若者グループは、〝Each One Reach One 一人が一人に出会う〟をテーマに、この1か月で5千人以上の人々に接することができた。若者たちは、保健省やアメリカのティモシー・フラニガン博士（ブラウン大学の伝染病専門家、永久助祭）率いるカトリック・エボラ救援運動の専門家によって養成を受けている。サレジオ会は、全国カトリック活動チームにも参加している。

リベリア・マタディのサレジオ・ユースセンターによるエボラ予防・治療啓発活動の様子

シエラレオネ　状況は悪化。サレジオ会は、エボラのために親を失った子どもたちの世話を政府から依頼され、ユニセフ、保健省、国境なき医師団などと協力し、120名の子どもを受け入れるセンターを設置。子どもたちはセンターで勉強、カウンセリング、音楽やスポーツ、遊びを通して心のケアなどを受けながら、親族に引き取られるまで過ごす。サレジオ会司祭、実地課程生と共に、サレジアニ・コオペラトーリ、看護師、ソーシャルワーカー、教師、若者らが運営に参加している。

リベリアとシエラレオネのサレジオ会の9つの小学校、5つの中学・高校で学ぶ8千人以上の生徒たちは、移動の制限のため学校に通えずにいるが、コミュニティー・ラジオを立ち上げ、太陽光電池のラジオを配布して通信授業を行う案や、携帯電話を持っている上級生たちのためには、ワッツアップやフェースブックを活用する案を検討している。

副管区長のシルヴィオ・ロッジャ神父は次のように強調する。「1国で対応するのが非常に困難な事態。リベリアやシエラレオネ、ギニアなどの国々の経済、社会、政治が破たんするようなことが現実となったなら、アフリカ全体、世界全体が敗者になってしまいます。危機を食い止めなければ、安全な国境などなくなるのです。」

一方、ナイジェリアから来たキリスト教徒とイスラム教徒の若者から成るグループ「ドメニコ・サヴィオとドン・ボスコ」は、リベリアの農村部に水や食料・殺菌剤・石けんなどの支援物資を届ける活動を続けている。

エボラ危機のなか、サレジオ会員と若者、協力者たちが〝限界をもうけない〟愛を証ししていることは大きな価値をもつ。苦しむ兄弟姉妹のために行ったことは、永遠に残る。

エボラ予防・撲滅のために活動を行っている「ドメニコ・サヴィオとドン・ボスコ」のメンバーたち

エボラ出血熱救援活動支援のためのご寄付のお願い

下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの振込用紙にて）ご寄付をお願い申し上げます。

郵便振替
口座番号　00100-7-412947
加入者名　「ドン・ボスコの風」編集事務局
※通信欄のご寄付意向にチェックを入れて、ご寄付金額を明記ください。

Don Bosco Bicentenary of Birth

Pilgrimage Tours in 2014

ドン・ボスコゆかりの地を訪ねてきました!

ドン・ボスコ生誕200周年記念 巡礼の旅 フォトダイアリー

ドン・ボスコ生誕 200 周年の祝賀期間中、ゆかりの地を巡る旅が数多く企画されています。これまで既に旅してきた 3 つのツアー参加者の姿を通して、ドン・ボスコが生きたイタリアの“風”を届けます。あなたも行ってみたくなりますよ!

文・写真／サレジオ会日本管区、サレジアニ・コオペラトーリ、サレジオ工業高等専門学校

朝陽を浴びるドン・ボスコ記念大聖堂

フランス、アヌシーの聖フランシスコ・サレジオ像の前にて。立ち姿も様になります。

サレジアニ・コオペラトーリ巡礼旅行

2014年8月19日～26日

訪れた都市：トリノ、ヴァルドッコ、アヌシー、キエリ、コッレ・ドン・ボスコ、モリアルド、ファエンツァ、アッシジ、ローマ、バチカン

ローマのサン・ピエトロ大聖堂前でパチリ! ロロピアナ神父様、いい笑顔です!

アッシジのフランシスコ会修道院聖堂でミサをささげました。祈りの雰囲気があって、心が落ち着きます。

トリノから車で3時間30分、聖フランシスコ・サレジオゆかりの地フランス、アヌシーに到着。自然豊かなアヌシー湖の風景に癒やされました!

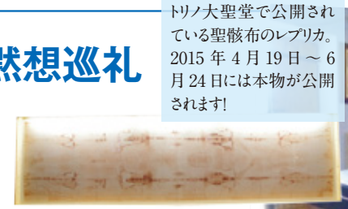
モリアルドの広場に佇(たたず)むドン・ボスコ像

教皇様の謁見で3、4人で開門と同時に全速力で走り、最前列の席を確保しました。フランシスコ教皇が目の前に!!

サレジオ会日本管区 黙想巡礼

2014年8月19日～26日

訪れた都市：アヌシー、コッレ・ドン・ボスコ、モリアルド、カステルヌオヴォ、キエリ、トリノ、ヴァルドッコ、スペルガ、ヴァルサリチェ、ローマ、バチカン、アッシジ



トリノ大聖堂で公開されている聖骸布のレプリカ。2015 年 4 月 19 日 ～ 6 月 24 日には本物が公開されます!

カプリリオ村の資料館内部。

キエリの教会。

ドン・ボスコの生家を復元した建物。今では資料館になっています。

ヴァルサリチェの教会に安置されたドン・ボスコの骨の一部。

コッレ・ドン・ボスコで朝の祈り。清々しい!

サレジオ会ローマ本部にて。総長とともに。

フェルナンデス総長は気さくで若々しい雰囲気でした。飲み物をいただいているところ。

サレジオ高専職員・保護者巡礼旅行

2014年9月4日～12日

訪れた都市：トリノ、コッレ・ドン・ボスコ、ヴァルドッコ、ヴェネチア、フィレンツェ、ローマ、バチカン

バチカンは最後からの 2 番目の巡礼地（最後はドン・ボスコの建てたサクロクオーレ大聖堂）。システィーナ礼拝堂、サン・ピエトロ大聖堂内のペトロ像上のドン・ボスコ像に感動しました。

今回の巡礼ではドン・ボスコ巡礼と同時にイタリアの文化、歴史にも触れました。ローマ時代の建造物、コロッセオに圧倒されました。

トリノの町中を走る路面電車。

ミラノからイタリアに入り、一番最初の巡礼地がコッレ・ドン・ボスコ。ドン・ボスコの育った雰囲気に触れ、この巡礼の大きな目的を最初に確認できました。

ヴァルドッコ、ドン・ボスコ ミュージアムにて。ヴァルドッコの発展を模型で見ることができ、ドン・ボスコとそれに続く人たちの働きに頭が下がる思いでした。

BICENTENARY OF BIRTH NEWS

ドン・ボスコ生誕200周年ニュース

ダイジェスト版

2014年8月16日、世界各地でドン・ボスコ生誕200周年の祝賀期間がスタート。日本各地でも記念イベントが活発に行われています。Facebook「ドン・ボスコの風」でも日々お伝えしていますが、その中から少し紹介します。（誌面の都合で紹介できなかった皆さん、ゴメンなさい!）

取材・文・写真 ● 編集部

2014
8月16日
お祝いの年スタート!

この日はドン・ボスコ199歳の誕生日!サレジオ家族それぞれの場所でお祝いを始めました。

▲長野県で開催された「野尻湖少年聖書学校」中高生の部で。ドン・ボスコを囲んでバチリ!

▼東京・調布サレジオ神学院聖堂にて。溝部脩司教主司式による開始記念ミサ。

サレジアン・シスターズ
東京・目黒修道院のミサ。

イエスのカリタス修道女会管区本部。「ドン・ボスコの誕生日をケーキで祝おうプロジェクト」を立ち上げ、みんなで一致協力してケーキ作り。ドン・ボスコとともに喜びにあふれた一日でした!

▲ドン・ボスコ社に特設コーナー出現。

▲サレジアン・シスターズ山中修道院では、8月30日、夏の黙想会奉仕の終了、学童保育「くじらっこ」の夏季保育の終了と合わせて、感謝の納涼祭を行いました。記念の旗とうちわをもって、記念撮影。ドン・ボスコ、ありがとう!!!

ベッキのこの丘から、ドン・ボスコ生誕200周年の祝いの年（コッレ・ドン・ボスコ）が開幕したことを、今ここに宣言します。

ドン・ボスコが天から私たちを祝福し、私たちの取り組み、私たちの夢が現実となる恵みを取り次いでくださいますように。皆さん、ドン・ボスコ生誕200周年、おめでとうございます。

サレジオ会
フェルナンデス総長による開幕のメッセージ（一部）
全文はhttp://salesians.jp/library/db200newsの「No.13」よりご覧いただけます。

2014
9月15日
Opening mass

各地で記念開祭ミサが行われました。

日本全国のサレジオ家族が各地の教会に集まって開祭ミサを捧げました。

【カトリック碑文谷教会（主司式:溝部脩司教）】参列者は400名超。溝部司教は「家庭的精神と、若者と共に一生を捧げる生きかたこそサレジオの精神」と語り、「この1年、あなたが教会に何ができるか考え、行動してください」と呼びかけました。

東京 碑文谷

▲ミサ後の青年・中高生スポーツ大会。汗を流しつつ、交流を深めました。

三重 四日市

◀【四日市サレジオ志願院（主司式:北川大介神父）】サレジオ志願院の志願者による元気な歌声が聖堂に響き渡り、若さあふれるミサになりました。ミサ後は立食パーティー。「あめのきさき」を歌い、喜びのうちに閉会しました。

大阪 玉造

▲【城星学園 サレジアン・シスターズ玉造修道院（主司式：鈴木英史神父）】30名ほどのサレジオ家族でミサをささげました。ミサ後は修道院の食堂で食事を共にし、アカデミアと各会による出し物を披露。家庭的な雰囲気のうちに喜びの時を過ごしました。

大分 別府

◀【カトリック別府教会（主司式：ブッポ・オランド神父）】ミサの中で自己奉献のシンボルとしてサレジオ家族それぞれの会憲会則を奉納。ミサ後は食事会を開き、動画「夢は続く」の視聴、テーマソング「道標」の紹介、お楽しみ形式で記念グッズをプレゼント!若者たちを父なる神に導く使命を再確認しました。

2014 EVENTS

学校でのイベント

各地のサレジオ家族の学校にてドン・ボスコ生誕 200 周年を祝う様々な取り組みが行われました。

8月26日 宮崎 日向学院

日向学院中学校・高等学校では 8 月 26 日より 2 学期がスタートしましたが、今年は始業式の代わりに、ドン・ボスコ生誕 200 周年記念開始式を行いました。

9月1日 静岡 静岡サレジオ

9 月 1 日の始業式で、ドン・ボスコ生誕 200 周年開幕の記念式を行いました。マリアンホールのステージには 200 周年を祝うシンボルの花、ひまわりが咲きました。幼稚園から高校生また教職員のすべてが各クラス一つの花をつくりあげ、学園全体で大きなひまわり畑を作りました。各クラスのひまわりの中心部にはクラスの一致を表すクラスの総合写真を（そして花弁の 1 枚ずつには各自の名前を書いて）貼っていきました。太陽に向かって大きく伸びていくひまわりの花は、喜びと明るさをもって青少年のために一生を捧げたドン・ボスコの生き方をよく表現しています。

9月2日 東京 サレジオ小・中

9 月 2 日、小中の全校生徒が講堂に集い、ドン・ボスコ生誕 200 周年を祝う年の開始式が行われました。歌を歌い、祈りをささげて、ドン・ボスコの子どもとして生活できるよう心を一つにしました。

9月20~21日 神奈川 サレジオ学院

9 月 20 ～ 21 日、「サレジオ祭」が開催されました。カトリック研究会「オラトリオ・グループ」では、ドン・ボスコ生誕 200 周年とイタリア研修旅行について、研究発表をしました。ゆるきゃらドン・ボスコくんも来場者を歓迎!

長崎 大村

▶【カトリック植松教会（主司式：濱口秀昭神父）】サレジオ家族皆でミサを準備し、参列者は 100 名近く。フェルナンデス総長の「日本にあった方法でドン・ボスコの教えを生き、伝えるように」との言葉を分かち合いました。ミサ後は手作りクッキーのプレゼントに、皆大喜びでした。

宮崎 日向

◀【イエスのカリタス修道女会 宮崎修道院（主司式：田村宣行神父）】参列者は 120 名ほど。サレジオ会司祭だけでなく、宮崎教会の吉田神父、朱神父も参加。ミサ後の祝賀会では、カリタスの園の子どもたちの出し物、サレジアニ・コオペラトーリの歌、恵美神父の歌などが披露されました。

富士山

【富士山頂（関谷義樹神父）】ドン・ボスコが夢で見た「広い海に面してそびえ立つ高い山」である富士山に単独登頂。山頂の剣ヶ峰には朝 8 時に到着。火口壁にはもうつららが…。ドン・ボスコのように 3776（みなろー）ってことで…

イタリア ファエンツァ

▲【ファエンツァのカテドラル（司式：ロロビアナ・アキレ神父）】イタリア巡礼中のサレジアニ・コオペラトーリのメンバーは、チマッティ神父ゆかりの地で記念ミサを捧げました。このミサを巡礼中に捧げられる恵みに感謝!

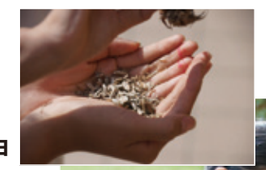
2014 9月15日 Opening mass 記念開祭ミサ

9月26日 大阪 城星学園

幼稚園、小学校、中学高等学校の全校生、来賓の方々が講堂に一堂に会して、ドン・ボスコ生誕 200 周年を祝うオープニングセレモニーが行われました。幼稚園児の代表が「はじめの言葉」を述べた後、シンボルの花「ひまわりの献花」が行われました。聖ドン・ボスコへの祈り、歌『ドン・ボスコへのおくりもの』を全員で合唱し、小中高の有志による劇『みんなのリーダー ミケーレ・マゴーネ』が披露されました。続いて、ドン・ボスコクイズ、幼小中高の代表者による共同祈願の後、小中高のダンスと共に、歌『ぼくらの太陽 ドン・ボスコ』を全員で歌い、司会による「終わりの言葉」で閉会となりました。この一年が「喜び」に溢れたよい年となりますよう願いながら。

11月2日 大阪 城星学園

学園全体での学園祭、城星フェスタでは、ドン・ボスコの歌を元気に歌って開幕。全校種が力を合わせて作った巨大なモザイク画もお披露目されました。



10月11～12日 東京 星美学園

星美短大（東京・赤羽）では、10月11～12日、星美祭が開催されました。今年のテーマは「Revolution ☆変わろう! ドン・ボスコと共に」。創意工夫あふれる様々な企画・展示で大盛況でした。そのなかで、ドン・ボスコが大好き!という幼児保育学科1年生の皆さんの企画が『ドン・ボスコを探せ!』。校内に出現したドン・ボスコや天使からスタンプを集めると素敵なプレゼントがもらえるという企画です。ちなみに幼保1年クラスの皆さんは、ドン・ボスコ生誕200周年テーマソングの「道標」を歌うのが大好きで、日本一上手に歌えると自信満々!だそうです。そのほか、学内のあちらこちらでドン・ボスコと出会い、学内のDB200準備委員による展示室も素敵でした。200周年の喜びを楽しく分かち合う雰囲気にあふれていますね!

2015年8月16日が「200回目の誕生日」。バースデイ・イヤーを盛り上げていきましょう!

皆さまの各地での取り組みやイベントの様子を写真や簡単なコメントで**「ドン・ボスコの風」編集事務局**までぜひ、お寄せください! Facebook「ドン・ボスコの風」への投稿もお待ちしています。
facebook.com/dbnokaze

おまけ

大阪星光学院で企画しているという「ビスコ」ならぬ、「ドン・ボスコ」。

10月28日 東京 目黒星美学園

生徒たちが育て、たくさんの花を咲かせたひまわりの種を収穫しました。ドン・ボスコ生誕200周年のシンボルフラワーが、今なお私たちが関わりをもっている被災地・宮城県荒浜地区の産であるというつながりに大きな意味を感じつつ、このひまわりの栽培が新たな本校の伝統となるよう、来年も大切に育てたいと思います。

本のひととき

Book Review

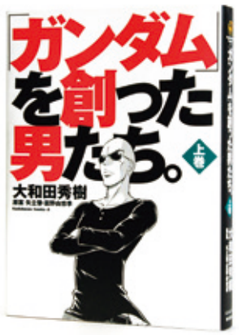
十字架

重松清 著
2012年 講談社
395頁 648円＋税

いじめを止めなかった。ただ見ているだけだった。それは、「罪」なのですか――？ 遺書を残し自ら命を絶った少年と残された家族、同級生の魂の彷徨を描いた長編小説。ここでの十字架は、その少年の死から背負わされた重荷ですが、時間と共に意味は変容していく。「わたしたちはみんな重たい荷物を背負っているんじゃなくて、重たい荷物と一つになって歩いているんだ」。最後に希望の光が見えるのが救い。重いテーマですが中高生だけでなく、親や教育の場にある人にもお勧め。大人が子どもや青少年と共にどう歩んでいくか、考えさせられる力作です。（関谷義樹評）

「ガンダム」を創った男たち。上・下巻

大和田英樹 著　矢立肇・富野由悠季 原案
2014年 角川書店
上巻252頁・下巻232頁 各660円＋税



マンガです。崇高な内容ではないけれど、20数年前に制作され、今も多くの人や文化に影響を与えているアニメ「ガンダム」を創った人たちの戦う姿が描かれています。周りから理解されずとも信念をもって、夢をもって、チームで働いていく姿が多少大げさに表現されています（歴史的に正しいかどうかは、自身でお確かめください）。アニメには興味がなかった私ですが、これを読んで思わず「ガンダム」の映画をすべて見てしまいました。想像を形にする楽しさ・苦労が伝わります。2015年5月出版予定のドン・ボスコのマンガにも乞うご期待！（by Don Mikael）

これが絵本の底ぢから！

谷地元雄一 著　堀川真 絵
2000年 福音館書店
240頁 1600円＋税

タイトルから、単なる絵本紹介本と思いきや、「とうちゃん」且つ男性保育者の子育て&保育奮闘記。その中身の濃いこと、おもしろいこと。巻末には谷川俊太郎さんと著者の40頁に亘る対談記事も挿入され、全246頁の分厚い本ですが、あっという間に完読。各節の最後に引用絵本の表紙や出典が載っているだけでなく、巻末にまとめて「この本に登場する絵本たち」と題して111冊の絵本の索引が載せられています。全て片端から購入して実際に手に取ってみたい誘惑に駆られそうです。絵本の力を借りて、子育てを、保育を、もっと楽しいものに！（田中直美評）

孫の力 ―誰もしたことのない観察記録

島泰三 著
2010年 中央公論新社
244頁 780円＋税

帯に「ニホンザルの研究者が、その手法で自らとその孫を観察した貴重な記録である」と書かれているのを目にした時、（まあ、なんと失礼な！サルの研究家が人間を観察……）と思いましたが、実際手に取ってみると、そこにあるのは、一人の「ジイジ」の孫娘を見るやさしいまなざしでした。一人の子どもをこんなに間近から、そしてこんなに「おもしろがりながら」観察した本があったでしょうか。それが、サブタイトルにある「誰もしたことのない観察の記録」なのでしょう。孫（子ども）は大人を変える力をもっています。かつては誰もがもっていたその力をもう一度思い出させてくれます。だから「帯紙」の表にこう書かれているのです「かつて孫だったすべての人へ」。イエスは言われました「この幼子のようにならなければ天の国には入れない」。（田中直美評）

もっとキミに伝え隊(タイ)!!

サレジアンが心を込めて贈る
あなたへ応援メッセージ

あなたの使命に気づいて

あなたのしたいことではなく、
神さまがあなたに望むこと

今回の応援隊員
川下・和子
かわしもかずこ
サレジアン・シスターズ

長崎県平戸市出身。1982年初誓願、学校、児童養護施設勤務を経て2年間ローマ留学。現在調布聖ヨセフ修道院で看護係、調布教会で中高生会担当。社会福祉士会やカリタスジャパン啓発部会で、自死や貧困、孤立の問題に取り組んでいる。

少子高齢化の進む今の日本の若者たちは、どう生きていくかを悩み、答えを探しています。現在、私は教会の中高生会に携わっていますが、若者たちは善意があり、結構しっかりしていると思います。若者の中には「海外に行って貧しい子どもたちのために働きたい」、「日本でも自分たちにできることをしたい」など、自身を人や社会のために役立てたいと言う人もいます。反面、社会そして大人たちを冷めた目で見ているところもあるように思います。

私はそういった若者たちにシスター・神父になる道を選んで欲しいと望んでいます。「とにかく何かをしたい。でも現実には生きるために社会で成功したい」という人間社会の枠の中に縛られた望みではなく、神さまがあなたに何を望んでいるか、何をして欲しいかに気づいて欲しいのです。

親は子どもに幸せになって欲しいという望みから、勉強や塾、習い事などを必死になって子どもにさせています。親は子どものためにと努力しますが、子どもの未来は神さまの望みによって実るものです。ですから、私は若者の皆さんに神さまのために働くことを意識してほしいのです。神さまにとって働く場所や内容、立場などはまったく関係ありません。神父やシスターになれるのも神さまの望みによってです。

ある時、「価値がある」と思っていることをリストから選んでもらうというワークショップをしました。ある子は「出世」「教養」「学歴」といった現実的なものをあげていました。しかし、別の子たちが「愛」「家族」「奉仕」などをあげているのを聞いて、その子は別の価値観に気づきました。そうやって若者たちは新しい価値観に出会い、抵抗したり受け入れたりして、自分自身を成長させます。ですから、出会う人によって若者は変わっていきます。自信がない子や「神さまなんていない」という子もいるでしょう。しかし、大切なのは一歩踏み出して考えること、具体的な目標・希望を持ち、差別しないで様々な人の意見を聞くことです。

「自分は何故生きているのか?」を何十年も探している人がいるというのを聞いたことがあります。生きている目的が分からないと命の価値もわからないかもしれません。命はどこから来たのでしょう? それがわからず過ごしているのは自分の存在の意味を知らないのと一緒です。神さまからいただいた命なのだと気づいてください。その大切な命に気づかないで粗末にするのは本当に悲しいことです。命が人間の手で造れないのは誰でもわかります。そしてどんな人でもそれぞれ神さまから使命を与えられて生まれてきたのです。だから、あなたの使命に気づいてください。

ありがとう!河合神父
教育へ傾けた情熱

2014年6月23日、河合神父は、チプリアニ管区長より病者の塗油を受けた後、サレジオ学院の鳥越神父はじめ長年共に働いてきた教職員、信徒の皆さん、親族の方に見守られながら永遠のいのちへと旅立った。サレジオ会員として教育に献身し、この7年間は糖尿病、がんと闘いながら、最後まで若い世代の育成に情熱を傾けた生涯であった。

1998年、サレジオ学院の校舎前にて生徒たちと

●理想に燃える青少年時代

河合恒男神父は1946年6月2日、5人兄弟の末っ子として大阪に生まれた。難波っ子はキリスト教とは縁のない環境で、家族の愛情に包まれながら育ち、大阪星光学院の中等部に入学、カトリックとサレジオ会に出会った。「幼い頃より教師になりたいと考えていた」恒男少年は高等部1年のときに洗礼を受け、3年より日向学院に転校、サレジオ会員として生きる道を歩み始めた。洗礼の恵みを頂いた時以来、「人々の救霊の為に働きたいという希望が燃え始めました。星光学院での神父様、修道士の皆様の生活を見るにつけ、……『サレジオ会こそ、私の理想を満たしてくれる会である』と確信するに」至ったと、修練期に入る許可願いの手紙にある。

1970年3月、サレジオ会員として初誓願を宣立、1977年10月8日、司祭に叙階された。その後、川崎サレジオ、日向学院、大阪星光学院、サレジオ学院の各校で働き、1998年から2006年までサレジオ学院の校長を務めた。河合神父の学校教育への貢献はサレジオ会にとどまらず、2005年から日本カトリック学校連合会理事長を務め、カトリック学校が使命をよりよく果たすことを目指し、時代が必要とする教育のため熱心に取り組んだ。プロテスタントとの連携を深め、「キリスト教学校教育懇談会」の発展にも尽力。2010年からは上智大学特任教授として教員養成課程の授業を担当、熱意と信念をもって、最後の入院の1週間前まで教壇に立った。

●温かい父の姿

「彼は文字通り、使命感で命を削った人。自分の体を燃やし、縮めることによってまわりを明るくするロウソクでした」。弱音を吐かない、人に迷惑をかけたくないという姿勢を貫く頑固さ、「……でも彼の頑固さはまわりに緊張、困惑などを与えるものではなかった。彼の言葉はいつも、ありがとう」だったと、河合神父の後輩であり横浜支部の院長だった鳥越神父は語っている。

河合神父と出会った多くの生徒、保護者、卒業生が思い出すのは、一人ひとりと親しく付き合い、励まし、助言し、導くその温かな父の姿ではないだろうか。出会う人が人生の荒海で道に迷い、行き詰っているとき、不安のとき、共に歩み、勇気づける、河合神父はそのようなスタイルを生き抜いたドン・ボスコの息子だった。私たちはサレジオの教育者としてのこの良き模範に感謝をささげたい。

神様が河合神父様に報い、私たちと共にいて、日本の福音宣教の前線に立とうとするすべてのカトリック学校の努力を祝福してくださいますように。

河合神父様、ありがとうございました!私たちのために祈ってください。

(文/サレジオ会)

パウロ 河合恒男(かわいつねお)

1946年6月2日大阪生まれ。1977年司祭叙階。横浜、日向、大阪の各校にて奉職。日本カトリック学校連合会、学校法人サレジオ学院の理事長を歴任。2010年より上智大学特任教授。2014年6月23日、帰天。

2012年、DBVG派遣の際の成田空港にて

ありがとう！アルド・チプリアニ神父 勤労の宣教師

2014年10月31日、管区長の任期を終える直前、肺がんで亡くなったアルド・チプリアニ神父。彼は65年の人生のうち44年を日本で宣教師として過ごした。神から頂いた命を、死の直前まで他者のために使い尽くしたその人生を支えたのは、「愛である」神への従順だった。彼の人生に関わりの深い方々の説教や弔辞の中からその人柄を振り返る。

（文／サレジオ会 編集部）

サレジオ会
溝部脩司教
2014年11月5日葬儀ミサ説教より抜粋

私が知っているチプリアニ神父は常に行動し、常に働いている人でした。いつも動いている。まったく動く機関車、走る機関車、と言ってもいいかなと思います。ゆったりと休むことをなかなか知らなかったかなとも思います。私が管区長のときに、彼に少しはイタリア人らしくなりなさいと言ったことがあります。もう全く日本人の勤労青年と同じように24時間働いた人であったかなと思います。ドン・ボスコが言う「パン、仕事、天国」、チプリアニ神父様にもパンと、仕事と、天国とを約束すると言う意味を繰り返して、あなたは働いてくれました。パンも仕事も十分に味わった神父様は、今ドン・ボスコが天国を与えてくれるでしょう。

実兄
アントニオ・チプリアニ神父
2014年11月4日通夜挨拶より抜粋

それまでは病気らしい病気もしたことがなく、与えられた職務一筋で、休暇にも行かないような真面目な司祭でしたが、入院してからの、この約1か月の間、兄である私と病室で共に過ごす時間が与えられ、兄弟として、たくさんの話に花を咲かせると共に、司祭同士、共に祈り、キリストの受難を黙想する時を過ごしました。そして、いつ、どんな時でも「大丈夫！」を口癖のように言っていました。

そして抗がん剤の副作用もよく我慢し、気丈にふるまっておりましたのは、真面目だけが取り柄だった、アルド神父の生き方そのものだったと思っています。もっと弟と語り合いたかった、もっと弟とともにカトリック教会の未来のことなども話したかったという気持ちがこみ上げてまいりますが、きっと今頃、アルド神父はこんな私を見て「大丈夫！」と笑っていることでしょう。

現サレジオ会日本管区長
山野内倫昭神父
2014年11月4日通夜説教より抜粋

「わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です」。（ヨハネの手紙一4・16）

この言葉はアルド・チプリアニ管区長が帰天するちょうど1週間前に、彼の過ぎ越しの神秘を祝うためにご自分で選んだみ言葉でした。10月24日、病室にいた私と他の2名に、「私は、神様の愛を信じました。主を信頼しています」と語り始め、「ヨハネの第一の手紙を開いてこの箇所を探して」と願われました。スマートフォンから、言われた箇所を検索し、読み始めましたら、「違う、それではない…違う」と、言われ、ヨハネの第一の手紙の4章7節に入るとチプリアニ神父の顔が微笑みに変わり、「それだ」と言いながら静かに聞き始めました「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知ってるからです」。さらに進んで、4章16節のところに来ると「そこだ」と言って口を閉じて涙を流し始めました。

（彼は）自分のためではなくて隣人のため、特にもっとも助けを必要としている方々、移民者、労働者、貧しい青少年のために全てをささげ尽くしたのでした。

サレジアン・シスターズ日本管区長
井上澄子シスター
弔辞より抜粋

チプリアニ神父様は、いつも温かく朗らかに接してくださり、私どもサレジアン・シスターズにとっての良き理解者、サレジアン・ファミリーの一致の要でした。神父様の寛大なお心、それぞれの家族の意見に耳を傾け、ファミリーの輪を築いていこうとなさる姿勢には、父ドン・ボスコのお姿を彷彿させるものがありました。

イエスのカリタス修道女会総長
志村百合子シスター／総評議員一同
弔辞より抜粋

「あなたにかけたわたしの希望はとこしえにゆるがない」（テ・デウム）

チプリアニ管区長様は、ちょうど1年前、別府で行われた私どもの修道会の臨時総会の閉会ミサを司式してくださいました。その時、管区長様は、あたかも私たちの創立者が、一人ひとりの娘たちを見守るような面持ちで「イエスを知らせ、愛させ、できるだけ多くの人を救うために、愛、謙遜、惜しみない心で世界に出て行ってください。イエスは皆さんと共におられます」と、私たちを励ましてくださったのでした。私たちは、この励ましのお言葉を、宣教師として生涯を全うされたチプリアニ神父様の私たちへの遺言として受け止め、生きてゆきたいと思います。

叙階後、故郷にて。
母親のローザさんとともに

香港時代の同級生・サレジオ会中国管区長
ランフランコ・フェドリゴッティ神父
弔辞より抜粋

あなたが他界したと聞いて、大変驚き、深い心の痛みを感じています。この春、あなたと一緒にローマでサレジオ会第27回総会に参加した時に、お別れの時がこんなに早く来るとはまったく考えてもいませんでした。香港を通って、長洲（チュン・チャウ）時代の昔の友人たちに会いに来てくれるように、何回も何回もお招きしましたのに。

あなたは、総会の霊的な実りのため、私たちサレジオ会員の回心のため、命をささげたのでしょうか。回心はとても高くつく奇跡です。あなたは、自分の命をささげて、その代価を支払ったのでしょうか。

アルド、あなたはわたしの宣教師の最初の友人でした。覚えていますか。48年前、1966年10月22日、私たち2人だけで、飛行機に乗って、ローマを後にし、その翌日、香港にたどりついたことを。さらにその翌日の24日は、宣教の日の日曜日で、扶助者聖マリアの記念をしながら、宣教師としての最初の日を一緒に過ごしましたね。その後、60人ぐらいの神学生や哲学生と一緒に、忘れることができない生き生きした、サレジオ会らしい3年間を過ごしました。2人のゼン神父がいましたね。ジョバンニ・ゼン院長と教授のジョセフ・ゼン神父です。覚えていますか。それに2人の年配の宣教師、フランス人のアンリ・シャンジャ神父とミラノ出身のシルビオ・ロマツィ神父。あの2人は、どちらが説教上手か絶えず競争しているみたいでした。

そして、覚えていますか、元管区長のルイジ・マッシミーノ神父もいました。わたしたちは、vecchiaccio（ジーちゃん）と呼んでいましたね。いたずらっ子でしたね、わたしたちは。湿気の多い夏の夜、たがいにバケツで水をぶっかけ合ったり、毎週、授業のためにお出でになっていた白い髭のスッポ神父を困らせたりすることもありました。

あなたは、1度だけ香港に来てくれましたね。その時、車で、ヴィクトリア・ピークに連れて行き、素晴らしい香港の夜景を一緒に楽しんだことを覚えていますか。その帰りに、雨が降り、道が滑りやすくなって、運転が下手なわたしだから、タイヤが溝に入ってしまったことも覚えていますか。あれ以来、香港に来たことがないのは、その時のショックのせいだったのでしょうか。

親愛なるアルド、さようなら。そして、いつか、天国のサレジオの庭で、また会いましょう。●

わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。
（ヨハネの手紙一4・16）

第27回サレジオ会総会にて。
新総長に選出されたばかりのフェルナンデス総長と

アルド・チプリアニ
Aldo CIPRIANI sdb

1949年8月7日イタリア・アレッツオ生まれ。1977年司祭叙階。その後、川崎サレジオにて教職、管区秘書、ドン・ボスコ社社長、管区財務、サレジオ学院理事長、目黒支部院長を経て、日本管区長に。育英学院、大阪星光学院、ドン・ボスコ学院理事長を兼任。2014年10月31日、帰天。享年65歳。

PRESENT ドン・ボスコの風 読者プレゼント

応募方法：
お名前（フルネーム）・住所・年齢・ご職業とご希望のプレゼント（A・B・C）いずれか一つを明記し、本誌のご感想・ご要望をお書き添えの上、Eメールまたはハガキで下記宛先までお送りください。

【Eメールの場合】
DB-no-kaze@donboscojp.org
【ハガキの場合】
〒160-0004
東京都新宿区四谷1-9-7 ドン・ボスコ社内
「ドン・ボスコの風」編集事務局

応募締切：2015年3月31日消印有効

当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
ご応募いただいた方の個人情報は賞品の発送のみに使用し、
その他には一切使用致しません。

A ドン・ボスコ200 記念グッズセット

ドン・ボスコの生誕200周年を記念して制作されたグッズ（ロゴステッカー、シールセット、うちわ、ギミックボールペン）の4点セット。ロゴステッカーは貼ってはがせるタイプ、ペンは現在購入不可のレアグッズ。

3名様

B ドン・ボスコ マグネット

ドン・ボスコの半立体マグネット。優しい眼差しでいつでも見守ってくれる。付属の金具を折り曲げて使用すれば、卓上置物にも。

イタリア製
H75 × W60mm

3名様

C ドン・ボスコ像（ブロンズ色）

卓上サイズ（高さ145mm）のドン・ボスコ像。デスクでの勉強や仕事の合間に、霊的励ましを祈ってみては。生誕200周年の記念にどうぞ。

イタリア・樹脂製
H145 × W45 x D40mm

3名様

（いずれもドン・ボスコ社提供 www.donboscosha.com）

from the Editor 編集後記

200年前にイタリアに生まれたドン・ボスコ。そして今この日本に生まれてきた私。それぞれの意味とそのつながりを考えてみるのがドン・ボスコ生誕200周年の祝いの意味なのですね。閉幕のときには何か変わっていることを自らに期待して。（S）

今号より、新管区長を迎えての誌面作りとなりました。ドン・ボスコの風が日本へ、世界へ吹きわたるよう、祈りつつ。（N）

ドン・ボスコの風 No. 14
SALESIAN BULLETIN JAPAN January 2015
2015年1月31日発行（年2回発行）

編集人　関谷 義樹
発行人　山野内 倫昭
発行所　カトリック・サレジオ修道会
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0004
東京都新宿区四谷1-9-7
ドン・ボスコ社内
電話：03-3351-7041
Fax：03-3351-7042
Eメール：DB-no-kaze@donboscojp.org
編集・デザイン制作　ドン・ボスコ社
印刷所　日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© カトリック・サレジオ修道会 2015

次号No.15は2015年7月発行予定です。「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ http://salesians.jpでご覧いただけます。トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」

Info お知らせ

ドン・ボスコの仲間とつながろう！ 生誕200周年 青年イベント（日本国内・イタリア）

2015年8月16日にドン・ボスコ生誕200周年を迎えるにあたり、サレジオ家族に関わりのある若者のため、様々なイベントが企画されている。

日本国内では「Salesian Youth Day」と題し、ドン・ボスコの仲間とつながりを作る機会としてのイベントを、サレジオ家族青少年司牧合同で企画中。教会青年・サレジオ家族学校の生徒・希望者を対象とし、「青年の部」（18～30歳）と「中高生の部」に分けて開催する予定。「青年の部」は今年4月末の連休に、赤羽・杉並・調布を夜間歩いて巡礼する企画を検討中。「中高生の部」は6月6～7日にかけて調布でスポーツ大会・合宿・ドン・ボスコについての学び・ミサ等をする企画を検討している。

また、世界中のサレジオ家族に関わりのある若者が集まる大規模な祝賀イベントとして、今年8月イタリアで「SYM Don Bosco 2015」が開催される（SYMはSalesian Youth Movementの略）。日本からもこのイベントに参加する巡礼ツアーをサレジオ会で企画中。祝賀イベントの前後にドン・ボスコゆかりの地を巡り、聖人が生きた足跡をたどる旅に、多くの若者の参加が期待される。日程は2015年8月10～21日（12日間）で、イタリアのトリノ・アッシジ・ローマを訪問。参加資格は18歳（高校生を除く）～30歳の青年でサレジオ会活動に関係している方（教会青年会・学校同窓生など）。お問い合わせは、同行司祭の三島心神父、浦田慎二郎神父まで。

これらのイベントをとおして生まれる「ドン・ボスコの仲間のつながり」を活かし、今後も持続性のあるムーブメントとしていくことが期待される。

SYM支援のためのご寄付のお願い
イタリア・日本で開催されるSalesian Youth Movementの活動支援のため、ご協力をお願いいたします。下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの振込用紙にて）ご寄付をお願い申し上げます。

【郵便振替】
口座番号　00100-7-412947
加入者名　「ドン・ボスコの風」編集事務局
※通信欄のご寄付意向にチェックを入れて、ご寄付金額を明記ください。

刑務所の少年たちからメッセージ CD「ぼくのゆめは…」発売中

先日発売されたCDアルバム「ぼくのゆめは…」は、奈良少年刑務所の少年たちの詩集「空が青いから白をえらんだのです」（寮美千子（リョウミチコ）編）に、中川五郎さんら他、著名なアーティストたちによる作曲・演奏で企画・制作された。イエスのカリタス修道女会のスモールクワイアにも声がかかり、メンバーのシスターたちは少々戸惑いながらも、「少年たちが夢と希望を持って再出発することを祈りつつ、喜んで参加させていただきました」と語った。去る11月20日、北沢タウンホールにて発売記念コンサートが開催され、参加シンガーたちが一堂に会し、熱のこもった歌を披露した。少年たちの苦悩、優しさ、父親、母親との葛藤などを描いた詩はどれも心に響く。多くの方に聴いていただきたい一枚。定価本体2500円＋税でドン・ボスコ社他にて購入可能。

ドン・ボスコの風 No.14 2015年1月
SALESIAN BULLETIN JAPAN
January 2015 年2回発行

発行：カトリック・サレジオ修道会 「ドン・ボスコの風」編集事務局 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7
TEL: 03-3351-7041 FAX: 03-3351-7042 Eメール: DB-no-kaze@donbosco.jp.org

サレジオ家族 年間目標 2015

ドン・ボスコのように 若者と共に 若者のために

サレジオ会総長 アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

Illsutrated by
栗生ゑゐこ

Strenna
2015
サレジオ家族
年間目標

「君たちが若者だというだけで、私は君たちを心から愛している」

良き牧者イエスのみ心は、私たちの最も大切な模範であり、よりどころです。同時に、私たちはドン・ボスコを具体的な模範とし、牧者の愛をもって青少年の教育を実践します。「君たちが若者だというだけで、私は君たちを心から愛している」――ドン・ボスコの活動のすべては若者のためでした。彼は若者一人ひとりに細やかに心を配り、その父のような愛によって、若者はより崇高な神の愛を感じとることができたのです。

私たちもドン・ボスコのように、若者一人ひとりと深いレベルで出会い、若者を信じ、人のために生きるよう助け、イエスへと導き、彼らの中に神の国の種があると確信しましょう。ドン・ボスコ生誕 200 周年の今、教皇フランシスコの呼びかけに応え、私たちサレジオ家族は教会と共に歩みます。ドン・ボスコのように最も小さく貧しい、私たちを必要とする若者のところへ出向きましょう。困難のうちにある若者こそ私たちの善であり、私たちが愛によって生きるよう助けるでしょう。

サレジオ会総長　アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父
2015 ストレンナ要約より

ドン・ボスコ 生誕200周年 1815 2015 BICENTENARY OF BIRTH